



2024年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年5月15日

上場会社名 株式会社エスユーエス 上場取引所 東
 コード番号 6554 URL <https://www.sus-g.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 齋藤 公男
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼最高財務責任者 (氏名) 浅田 剛史 (TEL) 075-229-7400
 四半期報告書提出予定日 2024年5月15日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2024年9月期第2四半期の連結業績(2023年10月1日~2024年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年9月期第2四半期	6,209	10.1	451	△10.6	481	△7.9	355	2.5
2023年9月期第2四半期	5,639	10.1	505	27.4	522	19.9	347	233.7

(注) 包括利益 2024年9月期第2四半期 350百万円(0.8%) 2023年9月期第2四半期 347百万円(442.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年9月期第2四半期	39.82	38.98
2023年9月期第2四半期	39.07	37.64

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年9月期第2四半期	5,322	3,439	64.3
2023年9月期	5,008	3,311	65.6

(参考) 自己資本 2024年9月期第2四半期 3,420百万円 2023年9月期 3,286百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年9月期	—	0.00	—	25.00	25.00
2024年9月期	—	0.00			
2024年9月期(予想)			—	25.00	25.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年9月期の連結業績予想(2023年10月1日~2024年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,900	12.2	800	31.7	831	33.3	548	18.7	62.50

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年9月期2Q	9,037,600株	2023年9月期	9,020,800株
② 期末自己株式数	2024年9月期2Q	90,184株	2023年9月期	100,184株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年9月期2Q	8,936,283株	2023年9月期2Q	8,885,883株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法）

当社は、2024年5月17日（金）に機関投資家・アナリスト向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算説明資料については、TDnetと当社ウェブサイトにて同日開示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、アフターコロナにおいて景気が緩やかに回復しているものの、円安の進行やウクライナ・イスラエル情勢などの地政学リスクの高まり等による原油価格や原材料価格の高騰、インフレに対する金融引き締め等による景気の下振れリスクもあり、依然として先行きの不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社のソリューション事業においては派遣業務の受注が増加しました。さらに、コンサルティング事業、AR/VR事業においても売上高が増加し、当社グループ全体の売上高は増加しました。AR/VR事業ではセグメント利益が大きく増加した一方で、ソリューション事業及びコンサルティング事業において利益率が低下したことに加え、エンジニアの積極採用や営業強化等による人件費の増加、移転した東京オフィスのコストを中心に販売費及び一般管理費が増加したことによりグループ全体の営業利益は減少しました。営業外損益では、AR/VR専門家育成プログラムを用いた研修に対する人材開発支援助成金の受給等により助成金収入が増加しました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高6,209百万円（対前年同期比10.1%増）、営業利益451百万円（対前年同期比10.6%減）、経常利益481百万円（対前年同期比7.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益355百万円（対前年同期比2.5%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

① ソリューション事業

派遣業務は、主要取引先である国内製造業及びIT関連企業におきまして、慢性的な技術者不足の状況は変わらず、技術者需要が堅調に推移しました。このような状況の中、継続的にエンジニアの教育等による高付加価値化に取り組み、派遣単価が前年同期比4.0%の増加となりました。さらに、継続的なIT分野の強化に取り組み、IT分野の売上高及び売上構成比がともに増加しました。エンジニア数につきましては、採用を強化したこと等により在籍エンジニア数の増加とともに稼働人数が増加し、稼働率は96.3%となりました。

請負業務は、IT請負においては前年同期に大型案件があったため、売上高は減少しました。製造請負においては半導体関連顧客で発生した部品供給不足等により売上高は減少したものの、下期より回復を見込んでおります。

利益面においては、利益率の高い請負業務の売上高が減少したことに加え、エンジニアの積極採用や営業強化等による人件費の増加、2023年8月に移転した東京オフィスの賃借料及び減価償却費の増加を中心に販売費及び一般管理費が増加しました。これらの費用は先行投資として捉えており、今後は利益率の改善に取り組んでまいります。

これらの結果、ソリューション事業の売上高は5,502百万円（対前年同期比7.8%増）、セグメント利益は378百万円（対前年同期比20.8%減）となり、2024年3月末時点の在籍エンジニア数は1,713人となりました。

② コンサルティング事業

ITコンサルティングサービス市場は、SAPをはじめとした既存の大規模基幹システムにおいてIT基盤の統合・再構築に関連する需要が高まっており、当社が携わるクラウド系基幹システムであるSAP S/4 HANA及びSAP以外のERPの導入案件が増加傾向となりました。このような市場のニーズに対応するため、自社ITコンサルタントに加えて協力会社の外注要員を活用し、各モジュール別チームの体制及び開発チームの体制を整えました。さらに、需要が高い首都圏においては、より上位工程であるコンサルティング領域の案件へリソースを集中し、売上拡大に努めてまいりました。一方で、導入案件における外注費の増加や、一時的に新入社員を中心に自社ITコンサルタントの育成に注力したこと等により、利益率が低下しました。その結果、ITコンサルティングは前年同期比で増収減益となりました。引き続き自社ITコンサルタントの人材確保及び育成に取り組み、今後の収益性向上に努めてまいります。

これらの結果、コンサルティング事業の売上高は442百万円（対前年同期比20.2%増）、セグメント利益は37百万円（対前年同期比32.1%減）となりました。

③ AR/VR事業

AR（拡張現実）、VR（仮想現実）、MR（複合現実）、メタバース、AI（人工知能）等の最先端IT市場におきましては、多種多様な商品及びサービスが需給ともに増加しており、その成長性が期待されております。このような状況の中、当社は大型展示会への出展やニュースリリース、提案型の企画営業、ダイレクトメール配信等の発信型の営業活動を組み合わせを行い、アフターコロナにおいても特にAR、VR、MRにニーズを持つ企業様からの引き合いが増加しております。

当第2四半期連結累計期間においては、産業向けのAR/VRコンテンツ開発、教育機関向けのメタバースを活用した教育システムの開発、AIを活用した業務効率化システムの開発、360° VRツアー等の受注により、売上高が好調に推移しました。また、子会社である株式会社クロスリアリティが提供するAR/VR専門家育成プログラムにおいては、厚生労働省の専門実践教育訓練給付金や人材開発支援助成金を活用した受講が可能となっており、本プログラムの利用により当社のエンジニア教育に貢献したことに加え、外部受講生も獲得しました。AR/VR事業が着実に拡大したことにより、利益面においても事業開始以来初の黒字転換となりました。

これらの結果、AR/VR事業の売上高は230百万円（対前年同期比82.7%増）、セグメント利益は42百万円（前年同期は22百万円の損失）となりました。

④ その他

障害者の雇用の促進等に関する法律に基づく特例子会社である株式会社ストーンフリーの売上高は、就労移行支援事業において就職決定による一時的な利用者の減少等により、前年同期比で減少しました。再生医療導入支援事業を行うプライムロード株式会社は、再生医療コンサルティングサービスの売上高が前年同期と同水準で推移しました。

これらの結果、売上高は33百万円（対前年同期比12.6%減）、セグメント損失は6百万円（前年同期は5百万円の損失）となりました。

（2）財政状態に関する説明

① 資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は5,322百万円となり、前連結会計年度末より314百万円の増加となりました。流動資産合計は4,539百万円となり、前連結会計年度末より305百万円の増加となりました。これは主に現金及び預金が171百万円増加、売掛金が118百万円増加したことによるものであります。固定資産合計は783百万円となり、前連結会計年度末より8百万円の増加となりました。これは主に有形固定資産が24百万円減少した一方、無形固定資産が36百万円増加したことによるものであります。

② 負債の状況

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は1,882百万円となり、前連結会計年度末より185百万円の増加となりました。流動負債合計は1,852百万円となり、前連結会計年度末より186百万円の増加となりました。これは主に未払法人税等が143百万円増加、未払金が22百万円増加したことによるものであります。固定負債合計は前連結会計年度末とほぼ同額の30百万円となりました。

③ 純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は3,439百万円となり、前連結会計年度末より128百万円の増加となりました。これは主に剰余金の配当223百万円を行った一方、親会社株主に帰属する四半期純利益355百万円を計上したことによるものであります。

④ キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ171百万円増加し、2,787百万円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、433百万円の増加（前年同期は183百万円の増加）となりました。資金の増加の主な要因は、税金等調整前四半期純利益481百万円の計上、減価償却費42百万円の計上によるものであります。資金の減少の主な要因は、売上債権の増加額118百万円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、39百万円の減少（前年同期は2百万円の増加）となりました。資金の減少の主な要因は、有形固定資産の取得による支出16百万円、無形固定資産の取得による支出22百万円によるものでありま

す。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、222百万円の減少(前年同期は135百万円の減少)となりました。資金の減少の主な要因は、配当金の支払額222百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年9月期の連結業績予想につきましては、2023年11月14日に公表いたしました予想値から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,615	2,787
売掛金	1,516	1,635
仕掛品	6	21
その他	95	95
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	4,233	4,539
固定資産		
有形固定資産	354	330
無形固定資産	74	111
投資その他の資産	345	342
固定資産合計	775	783
資産合計	5,008	5,322
負債の部		
流動負債		
未払金	932	955
未払法人税等	37	180
賞与引当金	357	362
その他	338	354
流動負債合計	1,666	1,852
固定負債		
資産除去債務	23	23
その他	7	6
固定負債合計	31	30
負債合計	1,697	1,882
純資産の部		
株主資本		
資本金	435	436
資本剰余金	531	523
利益剰余金	2,403	2,535
自己株式	△83	△75
株主資本合計	3,286	3,420
非支配株主持分	24	19
純資産合計	3,311	3,439
負債純資産合計	5,008	5,322

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)
売上高	5,639	6,209
売上原価	4,042	4,547
売上総利益	1,596	1,661
販売費及び一般管理費	1,091	1,210
営業利益	505	451
営業外収益		
受取利息	0	0
助成金収入	10	34
その他	7	0
営業外収益合計	18	34
営業外費用		
支払利息	0	0
寄付金	-	5
その他	0	0
営業外費用合計	1	5
経常利益	522	481
税金等調整前四半期純利益	522	481
法人税、住民税及び事業税	179	155
法人税等還付税額	-	△28
法人税等調整額	△3	4
法人税等合計	175	131
四半期純利益	347	350
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	0	△5
親会社株主に帰属する四半期純利益	347	355

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)
四半期純利益	347	350
四半期包括利益	347	350
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	347	355
非支配株主に係る四半期包括利益	0	△5

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	522	481
減価償却費	21	42
助成金収入	△10	△34
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	0	-
賞与引当金の増減額 (△は減少)	20	5
受取利息及び受取配当金	△0	△0
支払利息	0	0
売上債権の増減額 (△は増加)	△138	△118
棚卸資産の増減額 (△は増加)	10	△15
未払金の増減額 (△は減少)	△9	5
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△44	16
その他	19	4
小計	391	388
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	△0	△0
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△226	12
助成金の受取額	19	33
営業活動によるキャッシュ・フロー	183	433
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△7	△16
無形固定資産の取得による支出	△0	△22
その他	10	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	2	△39
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△132	△222
その他	△2	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△135	△222
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	50	171
現金及び現金同等物の期首残高	2,731	2,615
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,782	2,787

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ソリュー ション 事業	コンサル ティング 事業	AR/VR事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	5,106	368	126	5,600	38	5,639
計	5,106	368	126	5,600	38	5,639
セグメント利益又は損失(△)	478	54	△22	510	△5	505

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、就労移行支援事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ソリュー ション 事業	コンサル ティング 事業	AR/VR事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	5,502	442	230	6,175	33	6,209
計	5,502	442	230	6,175	33	6,209
セグメント利益又は損失(△)	378	37	42	458	△6	451

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、就労移行支援事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。